

「らく書きを通して考えよう」

奈良市立飛鳥小学校 教諭 松浦 慎

1. ESDを生かした授業づくり

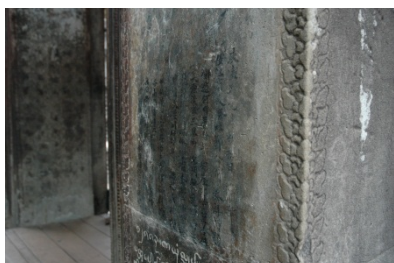
(1) 単元名

「らく書きを通して考えよう」

(2) 単元の概要

本単元は、世界遺産にかかれた「らく書き」を通して、遺産・公共物にいたずらをするに対する認識を深め、自分と遺産・公共物とのかかわり方や自分の歩みを残すことについて考えるものである。

法隆寺（奈良県斑鳩町）東大門（国宝）の檜製の柱に「みんな大スキ」と彫られた「らく書き」がある。景観を損なうだけでなく、文化財保護法に抵触する恐れがある。また東大寺や元興寺にも同じように柱に彫られた跡がある。一方世界に目を向けてみると、アンコールワット（カンボジア）にも日本人が書いた「らく書き」がある。アンコールワットは12世紀（1140年頃）に建てられたヒンズー教の寺院で廃墟となっていた建物である。寛永9年（1632年）、森本右近太夫一房という人物がこの地を訪れ、正面中回廊の柱など3か所に墨で「らく書き」をしている。今では、複数の研究者による査読も行われている。



同じ「らく書き」でも、時代や環境が変われば多角的に見えるということを押さえつつ、遺産・公共物にいたずらをするのが、「自分さえ良ければ」という軽い気持ちであっても、取り返しのつかないことにもなり得ることがあるということを感じてもらいたい。そのうえで、文化遺産や公共物と共に生きる今の自分がどう行動すればいいかを見つめ、持続可能な社会づくりの担い手となってもらうことを目的としている。

(3) ESDの視点の明確化

【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅲ 有限性…世界遺産は歴史的なつながりや普遍的な価値を持っているということ

構成概念Ⅵ 責任性…自分が取るべき行動について考えを深めること

(4) 留意事項

- ① 教材のつながり…6年生社会科の歴史において学習した、東大寺や元興寺が今も残されているということに気づかせたい。また、本単元で培った価値観や態度をもとに特別活動で卒業に向けての準備を行う。道徳の価値項目1-3（自律）とも関連させることが可能である。
- ② 人のつながり…発展的に、森本右近太夫について調べてみてもよい。また、東大寺や元興寺の住職の想いや願いを聞いたり、実際に保護のために尽力されている方の気持ちを聞き取ったりすることができる。
- ③ 能力・態度のつながり…人ともとのつながりを多面的にとらえ、総合的に考えることを、

日常生活の場面においてどのようにすればいいか、自己のこれからの生活を思い描きながら考えさせたい。

2. ESDの視点を生かした授業の実践

(1) 単元の目標（重視する能力・態度）

- ・世界遺産にかかれた「らく書き」を通して、「らく書き」について様々な角度から考えることができる（批判）
- ・遺産や公共物とのかかわりについて、他者とのつながりの中から多面的に考えることができる。（多面）
- ・自分のこれからの見据え、遺産や公共物とどのようにかかわっていくのがいいか考え、行動に移そうとすることができる。（参加）

(2) 評価規準

能力・態度① 批判的に考える力 (批判)	能力・態度③ 多面的、総合的に考える力 (多面)	能力・態度⑦ 進んで参加する態度 (参加)
① らく書きについて、様々な情報や意見を吟味し、自分の意見をもつことができる。 ② 積極的・発展的によりよい解決策を考えることができる。	①遺産や公共物とのかかわりについて多面的、総合的に考えている。 ② これからの生き方について様々な物事を関連付けて考えることが。	① 関係者や観光客へのインタビュー活動に進んで参加している。 ② 学んだことを実際の生活に生かそうとしている。 ③ 成果報告会に進んで参加し、積極的に発表することができる。

(3) 単元の概要（全14時間）

主な学習活動	◇学習への支援 ◆評価
1. 世界遺産の素晴らしさを堪能する。(1)	◇「守ろう地球の宝物」のDVDを活用する。
2. 「らく書き」があるという現実を知る。(1) ・奈良の世界遺産の心無い「らく書き」。 ・アンコールワットの「らく書き」。 ・思ったこと感じたことを交流する。	◇奈良時代について、社会科とも関連付けて解説する。 ◇オープンエンドで終わり、実際に自分の目で確かめに行きたくなるように意識づける。 ◆資料から分かること、友達の意見を踏まえて、自分の考えをもっている。(批判①)
3. 実際に東大寺（法隆寺）に行つて「らく書き」を	◇なら観光ボランティアガイドの会と連携し、小

<p>見たり、関係者や観光客にインタビューしたりする。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住職に話を聞く。 ・ 保護に携わる方の話を聞く。 ・ 観光客に話を聞く。 ・ 被害の実際を記録に収める。 	<p>グループで見学する時間を取る。</p> <p>◇メモを取ったり、インタビューしたり、多面的に取材する方法をあらかじめ指導しておく。</p> <p>◇デジカメの使い方を学習する。</p> <p>◆関係者や観光客に積極的に話しかけている。(参加①)</p>
<p>4. 調べたことを交流する。(2)</p>	<p>◇わかりやく伝えるための方法を選択できるように提示し、工夫を促す。</p> <p>◆様々な角度から見つけたことや教わったことをとらえている。(多面①)</p>
<p>5. 自分たちにできることを考える。(1)</p>	<p>◇単に「ポスターを描く」だけに留まらないたくさんの人を巻き込めるような活動になるように言葉がけする。</p> <p>◆自分たちにできることの案を考えている。(批判②)</p>
<p>6. 小グループによるプロジェクト学習を行う。(4)</p> <p>例 文化遺産の保護につながる活動</p> <p> ちらしを作成し、現地で呼びかける</p> <p> CMを作成し、放送する</p> <p> 実際に修復作業を行う など</p>	<p>◇これからの自己の生き方や生活スタイルに反映できるように意識させる。</p> <p>◆学んだことが自分の生き方に反映されている。(多面②)</p>
<p>7. 成果報告会をする。(1)</p>	<p>◇学年全体で取り組んでいるということ、また取り組んだことが社会に一石を投じていることを実感させる、</p> <p>◆進んで発表している。(参加③)</p>
<p>8. 卒業に向けて、やりたいことを考える。(課外)</p>	<p>◇学んだこと(価値観)を生かし、実生活に反映させる。</p> <p>◆やりたいことの中に、本学習で学んだことを加味している。(参加②)</p>